群　馬　県　立　沼　田　高　等　学　校（定時制課程）　学　校　評　価　一　覧　表　①　　（令和２年度版）

（様式１）

羅針盤			方策	第１回　点検・評価			第２回　点検・評価		
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等	改善策	自己評価	外部アンケート等	改善策
Ⅰ　特色ある学校づくりに努めていますか。	１ 特色ある教育活動を行っていますか。	① 特色ある教育活動に積極的に取り組んでいる生徒が75%以上である。	・食の教室やクラスマッチなど特色ある行事等の特別活動と部活動を充実させ、生徒の諸活動の活性化を推進する。社会人や卒業生による講演会を企画し、定時制と社会の結び付きや進路意識や職業観の育成の重要制の理解を促す。	A	A	本校の特色ある教育活動に積極的に取り組む生徒が88%であった。昨年度の同時期より6%下がった。コロナ禍で制限もあるが、感染症対策を徹底するとともに工夫を重ねて、今後も行事、特別活動の活性化を図りたい。	A	A	本校の特色ある教育活動に積極的に取り組んでいる生徒は97%であった。第１回より９%上がった。コロナ禍において中止にせざるを得なかった行事もあるが、生徒自身が検討、工夫をして行事等に取り組めるように今後も指導を継続していきたい。
		② 自分の学校が好きだと感じている生徒が80%以上である。	・学級活動、学校行事、部活動に積極的に取り組む生徒が自己有用感を感じることが多いため、本校の五常の教えを踏まえ、継続して生徒の主体性を大切にする教育活動を推進していく。	A	A	自分の学校が好きだと回答した生徒が86%であった。昨年度の同時期より2%下降した。生徒会活動、部活動、学校行事など、あらゆる活動への参加を通して、更に生徒の自己有用感を高めていきたい。	A	A	第1回と同様に自分の学校が好きだと回答した生徒は86%であった。思うように諸活動に取り組めない状況においてやむを得ない部分もあるが、非常時にこそ、生徒の主体性を大切にする教育活動を充実させたい。
		③ 三修制を利用して、95%以上の生徒が３年間で卒業している。	・三修制は本校の大きな特徴であり、説明会等を通して、生徒・保護者の理解を促す。また、学校に軸足を置いた生活習慣の確立を継続的に指導し、保護者とも協力しながら長欠者・退学者を出さない環境づくりに努める。	B		昨年度からの継続も含めて、通信科目の履修停止生徒が２名いる。引き続き、保護者と連携を図りながら、生徒の生活を規則正しいものにしていき、三修制選択生徒が三年間で卒業できるよう指導をしていく。	B		通信科目の履修停止生徒が、昨年度からの継続２名に加えて、３名増えて計５名となった。通信科目の履修については安定して登校することが最も重要な条件になる。家庭と連携しながら長欠者を出さない指導がより一層求められる。
Ⅱ　生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	２ 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	④ 「授業がわかりやすく、授業によって学力が身についている」と思う生徒が70%以上である。	・知識や思考力の基礎基本の定着を最優先課題としてステップアップサポート事業等の授業改善に組織的に取り組む。また、授業外の個別指導や長期休暇中の補習を充実させ、生徒の個性や個別の状況に適した指導を進める。	A	A	授業がわかりやすく、学力が身についていると回答した生徒が89%であった。昨年度にはなかった「学力が身についている」という質問が付け加わったが、昨年度の同時期より6%上がった。コロナ禍で制限もあるなか、教材の工夫、ICTの活用、個別指導など、更に工夫を重ねていきたい。	A	A	授業がわかりやすく、学力が身についていると回答した生徒が97%であり、第1回より８%上がった。ICTの活用の満足度も97.7%と高く、授業者の工夫が生徒の満足度に結びついている。今後はタブレットの活用を更に推進していきたい。
	３ 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	⑤ 成績不振者は全生徒の５%以下である。	・保護者との面談も実施しながら家庭での協力を仰ぎ、生徒には個別指導や補習を通して、生徒一人一人の実態に応じた丁寧な指導を継続する。	B	B	1学期は成績不振科目を有する生徒が２名、出てしまった。保護者と連携しながら、丁寧な指導を継続し、生徒全員の進級・卒業を実現したい。	B	B	２学期は成績不振科目を有する生徒が５名となってしまった。成績不振と欠席の多さは連動しているので、今後も保護者と連携を図り、生徒全員の卒業を目指したい。
Ⅲ　生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	４ 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑥ 生徒に関する情報交換を週１回以上実施している。	・組織的な対応を前提として、情報交換による共通理解が日常的に行われる、風通しの良い職場環境をより一層整備していく。	A		始業の打ち合わせや職員会議だけでなく、日常的に職員間で情報交換をし、更なる生徒の現状把握に努めていきたい。	A		毎日の職員打ち合わせだけでなく、生徒の個人情報に配慮しながら、日常的に情報交換、情報共有に努めている。今後も継続していきたい。
		⑦ 生徒会活動が充実していると評価する生徒が75%以上である。	・クラスマッチ、食の教室、校内発表会等を中心に、生徒会役員と全校生徒による主体的な生徒会活動が行われるよう、継続的に指導していく。	B	B	生徒会活動に積極的に取り組んでいると回答した生徒は72%であり、昨年度の同時期より4%下がった。コロナ禍で臨時休業や分散登校が実施されたことも要因の一つである。２学期以降は行事の充実を図りたい。	A	A	生徒会活動に積極的に取り組んでいると回答した生徒は82%であり、第１回より10%上がった。生徒を主体とした行事の見直しや代替案の実施に取り組んだ結果である。今後も生徒の主体的な活動を支援していきたい。
	５　学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。	⑧ いじめの発生防止に努め、いじめの解消率が100%である。	・定期的ないじめアンケートのみならず、普段から教職員一人一人が生徒をよく観察し、組織として情報を共有することで、早期発見・早期対応に努め、本校の五常の教えを踏まえて、いじめの未然防止と解決に努める。	A	A	1学期はいじめが確認されなかった。社会的にSNS上の誹謗中傷が問題視されていることもあり、定期的ないじめアンケートとは別に独自のSNSのアンケートもおこなった。いじめの事実は確認されなかったが、今後もあらゆる可能性を想定して、早期発見・早期対応に努めたい。	B	B	２学期はいじめの認知が１件あった。生徒・保護者の思いに耳を傾け、寄り添う姿勢を最も大切にした。教職員全体で組織的に対応していじめの解消に向けて取り組んでいる。今後も生徒・保護者の思いに寄り添いながら、継続して組織的に丁寧に対応していきたい。
	６ 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	⑨ 欠席、遅刻者数は、定時制課程としては極めて低い状態。全生徒数の５%以下である。	・基本的生活習慣の確立に向けて遅刻・欠席・早退を減らす指導を、家庭の協力を得ながら継続していく。スクールカンセラー制度も必要に応じて積極的に活用し、外部機関との連携も重視する。	A	A	1学期は欠席率4.0%、遅刻率0.5%であった。昨年度の同時期と比べ、欠席率が0.6%、遅刻率が1.8%下がった。欠席が20日を超えている生徒もいるので、家庭と連携し、指導を継続していきたい。	B	B	２学期は欠席率9.0%、遅刻率2.0%であった。１学期と比べ、欠席率が5.0%、遅刻率が1.5%上がった。欠席の多い生徒に関しては、担任を中心に丁寧な対応を継続してきたが、今後も組織的かつ丁寧な対応を継続していきたい。
Ⅳ　生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	７ 自己の生き方を考え、主体的な進路選択ができるよう、計画的な指導を行っていますか。	⑩ 進路通信等を年６回以上発行する。	・１学年から進路意識の向上・職業観の育成のための組織的・計画的な指導を実施する。進路通信「船出」を計画的に発行し、卒業生や社会人講師の活用など外部との連携も継続していく。	A		1学期段階で既に４回発行した。上級学校の奨学金の拡大や就学支援金の充実、就職に関する情報などを掲載した。今後も時宜にかなった情報を発信していきたい。	A		進路通信「船出」に関しては、今後も今年度の就職・進学の傾向と来年度への展望等に関する内容で年度末までにあと２回発行予定である。コロナ禍ではあったが、地域で活躍する社会人の方をお招きし、キャリア形成について学ぶことができた。
		⑪ 家庭での話し合いを促し、生徒の将来の志望について理解している保護者が65%以上である。	・学校からの配布物が保護者に渡るように連絡を徹底するとともに、面談等を通して進路に関する家庭内での話し合いを促す。生徒と保護者が同じ視線で進路を見つめることができるように支援をしていく。	A	A	保護者に理解されていると回答した生徒は72%であり、生徒を理解していると回答した保護者は84%であった。昨年度の同時期よりも生徒5%、保護者13%上昇している。相互の理解度が更に上がるように今後も面談や情報提供を継続し、家庭での話し合いを促したい。	A	A	保護者に理解されていると回答した生徒は73%、生徒を理解していると回答した保護者は80%であった。第１回と比較すると、ほぼ変わらない数値である。今後も生徒と保護者の理解度の差を埋めて、相互理解が深まるよう面談等を継続していきたい。
	８ 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	⑫ 好ましい職業観を育成するよう、在学中に就業体験をした生徒が80%以上である。	・勤労青年の学びの場としての定時制の理念に基づき、ハローワークなど外部機関との連携を図りながら、生徒の社会性や自己肯定感育成のためにも、引き続き就業体験を支援する。アルバイトだけでなく、インターンシップの活用も検討する。	B	B	アルバイトを含めた在学中の就業経験者は72%であった。１年生は昨年度と同様に、入学直後ということもあり、半数が就業未経験者である。今後は生徒・保護者の意志を尊重しながら、就業体験を促すよう指導していきたい。	A	A	アルバイトを含めた在学中の就業経験者は83%であった。感染症流行の社会状況等もあり、就業経験者の割合は昨年度よりも低い。在校生に関しては、卒業までの就業体験を社会状況を踏まえながら指導していきたい。
Ⅴ　開かれた学校づくりに努めていますか。	９ 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑬ 学校便り等（５：３０新聞及び５：３０新聞ミニを含む）を月２回程度発行する。	・今年度も年２回の５：３０新聞、毎月の５：３０新聞ミニの発行を継続する。生徒、保護者、外部に向けて情報発信を積極的に行い、広報を継続する。	A	A	5:30新聞ミニや保健だより、学級通信等で学校からの情報発信を積極的におこなっている。保護者の満足度は75%であった。	A	A	5:30新聞、5:30新聞ミニ、保健だより、学級通信の発行を継続的におこない、保護者の満足度も83%であった。今後も継続していきたい。
		⑭ ホームページの更新を毎月実施する。	・全日制と連携しながら、定時制のホームページを適宜更新し、より一層の情報発信に努める。また、必要に応じてＨＰのレイアウトなどを工夫し、より見やすい工夫をしていく。	A		毎月の5:30新聞ミニのHP掲載や毎週更新を原則としている定時制のブログ「笑顔の5:30」により、授業や行事等、学校生活の様子をわかりやすく発信している。	A		毎月の5:30新聞ミニのHP掲載やほぼ毎日更新している定時制のブログ「笑顔の5:30」を継続しておこなった。今後も情報発信を継続しておこないたい。
		⑮ 保護者面談の他、公開授業を年２回以上行う。	・保護者面談、公開授業、学校見学の随時受入を継続して行う。沼高定時制の広報に努め、中学校訪問も随時実施していく。	A	A	6月に保護者面談及び三者面談、保護者限定の公開授業を実施した。11月に予定している公開授業日は感染症の状況を踏まえて判断したい。	A	A	11月の公開授業も感染症予防対策を徹底して実施した。中学生、中学教員、本校保護者の計９名の参加があった。中学校の説明会にも全日制とともに参加した。